



声援を受けて走る参加者

## 早春の園内を駆け抜けて

花フェスタ記念公園を発着点とする可児シティマラソンが、2月19日に開催されました。今回で35回目となるこの催しには1,858人が参加。タイムレースやジョギングなど14部門が設けられ、10kmを走る6部門では参加者が公園内や周辺道路の起伏に富んだコースを駆け抜けました。またジョギング部門には親子連れや仮装した走者などが参加し、沿道の声援に励みながら園内を走りました。

## みんなで取り組む環境問題

2月26日に広見公民館ゆとりピアで環境フェスタを開催しました。小中学生や各種団体・企業が、ステージ発表や展示・体験ブースなどで環境に関する取り組みを紹介しました。

今回は可児市在住で岐阜地方気象台長の大沢雅亮さんが、岐阜県の大雨の特徴や地球温暖化の影響などについて講演。気候変動による豪雨災害への備えや地球温暖化対策について呼び掛けました。



講演する大沢さん



時速5kmの衝撃を体験する児童

## 命を守るシートベルト

今渡北小学校で3月6日、シートベルト着用の大切さを学ぶ講習会が4年生児童を対象に行われました。

県と日本自動車連盟（JAF）が主催したもので、児童たちは専用の装置に乗り、時速5kmで衝突した場合の衝撃を体験しました。

体験後、シートベルト着用で死亡事故を減らせることなどの説明を受けた児童は「後ろの席でもシートベルトは大切。家族にも呼び掛けたい」と話していました。

## 手作りのひな人形でお祝い

3月3日の桃の節句に、市内の各保育園・幼稚園でひな祭り会を行いました。

土田保育園ではひな祭りの由来などを聞いた後、手作りのひな人形をみんなの前で発表しました。紙皿や牛乳パックを使ったり、和紙で飾り付けしたりと、代表の園児が工夫したところを話しました。

最後にたくさんのひな人形に囲まれながら、元気にひな祭りの歌を歌ってお祝いしました。



手作りのひな人形を見せながら発表する園児

## ロボコンでダブル受賞の快挙

2月8日に中部中学校技術部の1年生チームが、創造アイデアロボットコンテスト全国大会の活用部門での優勝を富田市長に報告しました。報告に訪れたのは、前島さん、渡辺さん、原田さんの1年生チーム3人。

大会ではロボットを操作して紙コップを積み上げたり反転させたりして、相手チームとその数を競い合います。出場した3人は普段からトラブルを想定した練習を行い、大会では多少のトラブルは発生したものの、チームワークで乗り切り、優勝しました。また無駄のない動きや高い操作技術が評価され、全出場チームの中から1チームだけに与えられる文部科学大臣賞も受賞しました。

今回の報告会で3人は「たくさんの方々に支援や応援をいただいたおかげで、優勝することができた。来年もまた優勝できるよう頑張りたい」と語ってくれました。



左から渡辺詩月さん、前島幸輝さん、富田市長、原田玄昌さん



熱い戦いが繰り広げられた決勝戦



調印式に臨む㈱セブン銀行の大口智文常務執行役員と富田市長

## 多文化共生のまちへ

2月2日に市は、株式会社セブン銀行と多文化共生の推進に関する協定を締結しました。この協定は名古屋市に次いで全国2番目となるもので、外国籍市民が豊かな生活を送れるようにすることを目的としています。

今回の協定により、セブン銀行の運営する多言語アプリを活用し、行政情報や災害・防災情報など多様な市の情報を発信していきます。今後も外国籍市民が安心して、共に暮らしやすいまちづくりを進めていきます。

## 心強いパートナー引き続き

市は、2月2日にKYB株式会社と公共施設のネーミングライツ（命名権）の契約を締結しました。今回の契約は平成26年からの3年間の契約満了に伴う更新で、対象となるのは可児市運動公園のスタジアムとテニスコートの2つの施設です。

今回の契約により、引き続き5年間KYBスタジアム・KYBテニスコートとして、皆さんに愛される施設にしていきます。



調印式で言葉を交わす KYB ㈱の中島康輔社長と富田市長